

修道

information

- 新会員285名を迎えて 高木一之(高10回)..... 1
- 支部総会報告
 - 関東支部 宮田二郎(高33回)..... 2
 - 近畿支部 世良朋孝(高35回)..... 2
 - 九修会 石本俊亮(高27回)..... 3
 - 東部修道会 小畑泰偉(高26回)..... 3
 - 江能修友会 胡子雅信(高41回)..... 4
 - 修道医会 大段秀樹(高33回)..... 4
 - 修道歯科医会 毛利雅哉(高31回)..... 4
- 人物往来
 - 田中好一元理事長 三十三回忌..... 5
 - 加藤友三郎顕彰会の紹介 土肥博雄(高16回)..... 5
 - 碓井静照先生と加藤友三郎子爵 西林洋治(短二20回)..... 5
 - ACR Master(2012)に選ばれて 高杉潔(高8回)..... 6
 - 文学博士「高橋俊三」 小辻一洋(高13回)..... 6
 - 修道の思い出 吉川元(高22回)..... 7
- 同期会報告
 - 旧中37期・38期 河本武彦(旧中37回)..... 7
 - 高校四期会 皆川孝一(高4回)..... 7
 - 喜寿の旅 阿津地勲・山崎経男(高5回)..... 8
 - 修七会 山下泉(高7回)..... 8
- 歴史
 - あの日あの時 西田頼信(高2回)..... 9
 - 戦争とは何か 河野富士雄(高4回)..... 9
- 同窓会ニュース
 - 「修道学問所之蔵」移築・復元工事と募金報告..... 9
 - 山縣亮太選手 日本人初の9秒台に向かって..... 9
 - 東大 白砂投手 連敗阻止なるか!..... 10
 - 第2回修道杯修道学園(中・高)同窓会ゴルフ大会..... 10
 - 平清盛記念事業について 中村靖富満(高30回)..... 10
 - 修道学園同窓会連合会発足20年..... 10
 - 永年勤続表彰..... 10
- 事務局だより
 - 役員改選について..... 11
 - 会員名簿第36号の発行について..... 11
 - 住所変更手続きのお願い..... 11



新会員285名を迎えて

(修道高等学校第65回卒業式祝辞)

修道学園(中・高)同窓会

会長 高木 一之
(高10回)

修道高等学校第65回卒業式に臨み、修道学園(中・高)同窓会を代表いたしましたして、ひとことお祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さん、ご卒業、誠にありがとうございます。

本日、めでたく卒業されました皆さんを、我が同窓会にお迎えできましたことは、同窓生一同、心からの喜びであります。

この度の、栄えある卒業は、皆さんの、日々の努力の結晶であることはもとより、これまで慈しみ、育んでこられた保護者の皆様や校長先生、そして教職員の方々の、献身的なご指導によるものであることも、忘れないでいただきたいと思っております。

ご存じのように同窓会には、二つの大きな目的があります。

一つは、卒業生相互の親睦を図ることです。

現在、同窓生は3万1千名を越え、政治、経済、文化、医療等々様々な分野で活躍され、わが国はもとより広く国際社会においても貢献されておられます。

同窓会は、これからの同窓生が相集うための組織であり、100年を越える歴史を誇っております。今後、皆さんは、各界で活躍されることになると思いますが、どうか地元広島はもとより、他の地域の同窓生とも、積極的な交流を図っていただきたいと思っております。

修道で育まれた相互の強い絆は、今後の人生において必ずや大きな支えになるものと思っております。

そして、もう一つの同窓会の目的は、母校修道の発展に資することです。皆さんは、本館北側の「蔵」をご覧になったでしょうか。この蔵は、旧広島城郭内にあったと伝えられ、しかも修道の淵源である、広島藩学問所の蔵であった可能性が、極めて高いとの見解が示されている、貴重な建物であります。

これを校内に移築・復元することは、修道が藩校の流れを継承していることを、具体的に示す証になるもので、極めて意義深いことでもあります。

同窓会としても、この移築・復元に資するべく、一昨年から「同窓会設立100周年の、記念事業」として募金活動に取り組みました。経済情勢から、若干懸念もしましたが、短期間に目標を大幅に上回る寄付をいただきました。改めて、同窓生の団結力、母校愛の強さを実感いたしました。

昨年発行された「男たちの修道」の本の中にこんな一文があります。

ある方の言葉として「広島学院生は、学院生個人としてのプライドを持つているのに対し、修道生は、学園そのものにプライドを持っている。『愛着』と言いつつ直した方がいいかもしれない』と、まさに言い得て妙、修道同窓生の母校に対する強い思いを的確に表していると思っております。

修道の良さ、団結力の強さは卒業してからわかると云われます。どうぞ皆さん、これから修道同窓生として、母校のために精一杯応援していただきたいと思っております。

最後に、先輩として、皆さんに伝えたいことがあります。それは「何事にも四つに組む、逃げない」と言うことです。これからは、人間形成の一番大切な時です。困難に出会っても決して逃げない。人間、いったん逃げると、また逃げたくなります。自分の殻を突き破るためにも、失敗を恐れてはなりません。四つに組む。正々堂々の生き方をしてください。

それが、人間性を高め、人としての信頼をつくりあげていきます。これからは、勉強だけでなく、人間としての成長することを強く意識してください。

校是にある「知徳併進 質実剛健」は修道生にとって一生のテーマです。

大いなる成長を期待しております。

皆さんの洋々たる前途を心からお祈りいたしますとともに、有為な人材となられますことを切望して、お祝いの言葉といたします。

本日のご卒業、誠にありがとうございます。

(2013年3月2日)

支部総会報告

関東支部

宮田 二郎(高33回)

さる7月8日、修道学園同窓会関東支部のついでを東京ドームホテルで、「BUNBURYODOU」というテーマで3期の期を実行委員として開催しました。

講演会は元近畿管区警察局長の広畑史朗(23回)さんにより、事件は現場で起きているというテーマで行われました。地下鉄サリン事件でサティアンに乗り込んだ時のリーダーの機転を利かせた指示が、思わぬ事件の解決につながるという示唆的なお話でした。

今年には長年に亘りお世話になった林有厚会長(1回)が退任されることになり、新会長の佃会長(14回)が紹介されました。佃新会長から林会長への深い謝意が述べられました。

オープニングで、全日本学生音楽コンクール優勝の経歴をもつ京都大学の小島燎(63回)さんによりモーツァルトのバイオリン協奏曲他、演奏されました。体がバイオリンと一体化して紡ぎだされる音は、思わず涙が出そうになるほどの迫



力で、巨大な空間で500人近い人が彼1点に惹きつけられた感動的なひと時でした。演奏終了とともに、割れんばかりの拍手喝采でした。ユニバシアード出場当日は欠席でしたが、2012年ロンドンオリンピック出場の大塚亮太(63回)さんを慶應義塾大学クラブに訪ねインタビューした映像をお披露目しました。また、東京大学野球部の木村駿佑(61回)さん、白砂謙介(64回)さんに登場頂き、ベースボールマガジン社の柳本元春(27回)さんにインタビューして頂きました。昨年に引き続き、元広島ホームテレビアンサ、現東京吉本興業所属西村真(55回)さんに司会をお願いしました。ちょっとしたアクシデントも、笑いを織り交ぜながら流してくれるプロの腕力の発揮ぶりでした。田原校長からも、学生時代から、芸人を目指していたというエピソードもありました。こうした、若く、まさに「BUNBURYODOU」を地で行くメンバーにクロウズアップした、濃密な2時間でした。



同窓会近畿支部2012年度 総会・懇親会 開催報告

世良 朋孝(高35回)

2012年12月2日(日曜日)、ホテル大阪ベイタワーにおいて、近畿支部2012年度総会および懇親会が開催されました。今回も広島から田原校長、高木同窓会長、また関東支部からは、野崎幹事長をお迎えし、およそ90名近くの同窓生が集い、盛大に行われました。

総会は午前11時から開始され、今回も昨年に引き続き、近畿支部副代表幹事の有馬さん(高校24回)の名司会のもと、議事が進められました。まず近畿支部会長の齋本さん(高校17回)の開会挨拶、新執行部の紹介の後、前年度の事業報告・会計報告が、代表幹事・会計担当の林さん(高校19回)より、また会計監査報告が監査担当の伊藤さん(高校13回)からそれぞれ付議され、各議案および報告事項とも全会一致にて承認され、総会は滞りなく終了いたしました。

その後、今回はこのまま懇親会に入りました。始めに、高木同窓会長・田原校長・野崎幹事長の順に、ご来賓各位のご挨拶がございました。中でも田原校長からは近年発刊された『私たちの修道』が、地元で大きな話題を集めている様子や、山縣亮太君(高校63回)のロンドンオリンピックでの大活躍の話題など、母校が大きく注目された二年であったことを総括いただきながら、母校修道学園の近況をご報告いただきました。そして、西原近畿支部顧問(高校16回)の乾杯の音頭ののち、しばしの間、懇談、昔話に花が咲きました。

そして、次は毎回華麗なマジックで大好評を博している、マジシャン・ピリーこと

副島雅之さん(高校29回)がメインゲストとして登場。ファンタスティックなマジックが次々と飛び出し、今回は「メンタリズム」を取り入れた新手法のマジックも登場。神の手ピリーから相次いで繰り出されるスゴ技の数々に、参加者は度肝を抜かれ、また魅了されたひとときでございました。

また、毎年恒例の若手参加者の披露。ご挨拶、今回は高校54回の阿登さんが最年少ということもあり、阿登さんを皮切りに、高校52回の長崎さん以下ヤング世代3名にもご登壇願ひ、二言ずつ近況報告をいただきました。これから若い年次の卒業生が数多く参加いただけるよう、期待しております。

最後に、今回欠席された高校29回の近藤さんにかわり、同じ合唱団に所属している高校35回の世良さんが「歌のプレゼント」を引き続き校歌歌唱となりました。卒業した年代は違えど、修道近畿支部の同窓会旗のもと、「安芸の小富士に」と歌い始めると、自然と肩を組み合い、それぞれあの頃に帰る感覚を味わえるのは、同窓会ならでは、いつも感じます。最後に、結城近畿支部副会長(高校17回)による閉会挨拶で幕を閉じ、次回2013年12月1日(日)の再会を誓い合いました。

ご協力いただきました関係各位、そして参加者の皆様に、改めて御礼を申し上げます。



平成24年度九修会総会報告

九修会事務局 石本 俊亮(高27回)

昨年は、会長の虫垂炎による緊急入院で、急遽、次第を変更してバタバタと会をはじめましたが、今年度は、大きなトラブルもなく、予定どおり、年明けの1月26日に総会を開催することが出来ました。会の冒頭、井上会長(S43)より、これからの日本経済の事、広島駅周辺の再開発の話など、明るい年を迎えるにふさわしい挨拶をいただきました。

続いて、黒田副会長(S38)より、昨年の修道学園(中・高)同窓会が盛会であったことを報告いただきました。同窓会で頂きました記念のボールペンですが、会長によるくじ引きで、広島よりお運びいただきました。黒田副会長へ納まる椿事



後列左側より、石本(S50)、三好(H01)、近藤(S49)、河野(S41)、山口(S47)、浅海(S62)、秋山(S36)、芹川(S47)、濱岡(S41)
前列左側より、花岡(S38)、黒田副会長(S38)、井上会長(S41)、田島(S37)、盛脇(S45)

となり、笑いの中、乾杯へ進むことができました。

乾杯は、秋山先輩(S36)にお願いし、記念すべき20回目の懇親会がはじまりました。今年度の総会は、当初18名の出席を予定していましたが、寒さ厳しいお天気で、それだけの近況や、学園時代の思い出をかたりあいました。今年度新たに参加された河野さん(S41)は、唐津市で開業されていますが、ジャック・マイヨールと親交があったタイバーということで、唐津の海の素晴らしさを語っていただきました。また、久しぶりに長崎の諫早より参加された盛脇さん(S45)は、ご自身の病気の事を話されていましたが、リハビリに詳しい三好さん(H1)から意見を頂かれるなど、修道らしい交流風景もみることができました。このような雰囲気の中、今年も予定の2時間半を過ぎて、3時間があつという間に過ぎ去りました。最後は、校歌で締めくくりに来年度の再会を誓いました。

最後になりましたが、今年は、20年の節目を迎えたということで、新たな事業として、九州地区へ進学した後輩の励みを夏場へ実施することを、満場一致で決定したことを報告いたします。

平成24年度東部修道会報告

東部修道会事務局

小畑 泰偉(高26回)

平成24年10月17日に福山ニューキャッスルホテルにて第23回東部修道会を開催致しました。

総会は品川晃二東部修道会会長の挨拶で始まり、貫名賢本部同窓会副会長に祝辞を頂き、会計報告、監査報告と続

き、昨年より空席となっておりました当副会長に高校20回生の前原敬悟先生が推薦され、本総会において承認されました。

総会終了後、毎年特別講演を行っております。今回の講演は今までは全く趣向を変えて、参加者全員に「楽しい」と感じて頂き次回も参加したくなるようにとの思いで、高校36回生の酒井磨さんにお願ひ致しました。酒井さんは以前品川晃司さんのバックバンドで活躍されていたことのあるプロドラマーで、現在は東京、福山で活動されております。

はじめに酒井さんの挨拶の後、早速不思議な楽器が出て来ました。アフリカの「ジャンベ」という太鼓でその時の気温・湿度によって音色が変わるといふ繊細な楽器です。

まずは酒井さんにお手本として演奏して頂いた後、会場にも20個ほどの「ジャンベ」が配られました。酒井さんを真似てみんなで、ゆつくりしたテンポ、早いテンポ、大きな音、小さな音、会場全体で様々なリズムを奏でていきます。初めてにもかかわらず、皆さんの奏でた音は驚くほど揃っていて、さすが修道生と酒井さんも感心されておられました。新しい試みでしたが皆さん喜んでいただきました。ホッとしております。

藤田雄山前知事の乾杯の音頭で懇親会の始まりです。田原校長に現在の修道高校の現状をお話していただきました。

懐かしい母校の「今」を熱く語る校長先生のお話は会員の皆様にとっては毎回来しみます。「俺たちの時はこうだった」「昔とはずいぶんかわったなあ」等々、会話が盛り上がりです。今回は初参加の方が10名おられました。横のつながりはもちろん30回以上も離れた縦のつながりも方々で見かけられました。同窓会ならで

はの光景です。

この会に始めて参加された方がまず驚かれることがあります。なんと修道の同窓会に女性が参加されていることです。東部修道会とはほぼ同じ広島県東部及び岡山県エリアから修道にこ子息を通わせておられます修道中学・高等学校第33地区会の保護者の方々と、数年前より参加していただいております。

保護者の方々にとっては我が子の将来を見ているようで期待と不安の入り混じった複雑な気持ちではないかと思われませんが、概ね好評で少し安心しております。私たちは彼女たちのご子息が将来の東部修道会を担っていく事を期待しております。

最後はいつものように円陣を組み、全員で「安芸の小富士」を熱唱して散会しました。

次回は平成25年10月後半を予定しております。詳細は修道学園(中・高)同窓会ホームページでご確認下さい。飛び入り参加も歓迎します。是非お立ち寄り下さい。



第23回東部修道会同窓会



支部総会報告



平成25年6月16日(日) 於 能美海上ロジ

第19回 江能修友会総会

胡子 雅信(高41回)

平成27年7月7日に発足しました江田島市(江田島・能美島)出身および関わりのある者を会員とする江能修友会も19年目に入ります。この近年は、ぜひ

島でやりたいという声が多く、今年も江田島市能美町にある能美海上ロジにて総会および懇親会が開催されました。意外と広島からのアクセスはよく、宇品からは能美海上ロジ直行の船便(32分)もあります。

総会では役員若返りが大きなトピックでした。これまで設立以来、会の発展にご尽力いただきました北岡敏彦会長(旧中39)、久保瑞穂副会長(旧中3)が顧問となり、新会長として浜井貴人氏(高20)、副会長として今田裕二氏(高17)、山下江氏(高23)が就任することに

なりました。新体制でさらに盛り上げていきます。このたびは修道学園同窓会より公私ともご多忙の中、深山英樹会長代理様にご臨席賜り、温かいご祝辞を頂戴しました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

総会後の懇親会では学生時代に戻ったように仲間たちとの歓談、懐かしい昔話に花があちこち咲いていました。最後に参加者一同が輪になり肩を組みながら、校歌を歌い、来年の再会を約束しました。

修道医会 平成25年度(第57回)総会報告

修道医会事務局長

大段 秀樹(高33回)

修道医会は修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は約1,000名です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会(野球観戦)等を催しています。平成20年から学生会部会をつくり、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は平成25年7月13日(土)、ANAクラウンプラザホテル広島を会場に開催しました。午後4時30分より評議員会を開いた後、午後5時からの総会において、平成24年度の事業報告や決算報告に加えて、平成25年度の事業計画や予算が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。加えて、第15回学術奨励賞は高校47回卒の下村学先生(広島大学病院消化器・移植外科)が、低酸素誘導因子が大腸癌肝転移の治療標的となりうることを解明に関する論文業績によって受賞されました。第13回社会功労賞は、福永泰州先生(高校7回卒)で医師会等での要職を歴任して、広島地域における医療・福祉の向上で受賞され、第6回文化功労賞は、柴田醇先生(高校7回卒)が永年の地域医療への功績、さらにご趣味のお写真での輝かしい経歴とご貢献を対象に受賞されました。

次いで午後5時半より特別講演として、高校31回卒で福島県立医科大学教授の坂井晃先生より「福島原発事故後の

の県民健康管理調査」を、高校34回卒の名古屋市立大学教授の橋谷光先生より「平滑筋の自動性についての最近の話題」を題した講演を拝聴しました。

午後7時からは会場を移して懇親会を開きました。井内康輝会長(高校19回卒)のご挨拶に引き続き、ご来賓の林正夫修道学園理事長、高木一之修道学園同窓会会長のご挨拶を頂きました。田原俊典校長から学園の現状を伺いました。さらに前述の3つの賞の表彰と受賞者の謝辞が続き、岩森茂先生(旧中36回卒)のご発声で乾杯して懇談に移りました。途中で、新任の鳥取県立厚生病院院長井藤久雄先生(高校19回卒)のご紹介、ご挨拶がありました。学生会部会からは8名が参加し、自己紹介をして頂きました。

今回の参加者は73名でありました。最後に肩を組み校歌を斉唱し、修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

第49回修道歯科医会総会

毛利 雅哉(高31回)

平成24年11月10日(土)午後4時から「県民文化センター(鯉城会館)」において、第49回修道歯科医会総会が開催された。総会においては、来年(平成25年)が修道会創立50周年にあたること、それに伴い50周年記念祝賀会が開催されることについて協議され、会員丸となって記念祝賀会を成功させようとの確認がなされた。

総会に続いて、東森秀年先生による「がん治療を支える周術期口腔機能管理と地域連携」と題した講演会が行われた。東森先生は高校35回の卒業生で、現在、呉共済病院歯科口腔外科部長を務められている。今回は、今年度の診療報酬改定でも導入された周術期における口腔機能管理について、ご自身の経験や知見を踏まえてお話をいただいた。特に、がん拠点病院、病院歯科口腔外科、開業医の3者による連携体制の確立が重要であると述べられていたのが印象的であった。

午後6時より懇親会が行われ、母校より林正夫理事長、田原俊典校長をお招きして母校の現況についてお話をいただいた。和気藹々とした雰囲気の中、あつという間に時間が経ち、最後に恒例である参加者全員円陣となつての校歌斉唱をもってお開きとなった。



田中好一元理事長 三十三回忌

平成25年7月、田中好二元理事長(在任期間・昭和22年4月～昭和53年12月)の三十三回忌を迎えました。田中元理事長の功績を振り返るとともに修道学園に対する多大のご尽力に感謝の意を表すため、7月5日に学園関係者が墓参を行いました。

田中元理事長の人柄と功績については、修道学園史の中に次のように紹介されています。「戦災の痛手に悩んでいた修道は、田中好一元山陽木材防腐会社社長を理事長に迎えた。当時その人格と識見は高く評価され、広島商工会議所会頭を歴任し副知事の呼び声もあつた広島財界の巨頭である。この理事長の教育にかけた深い情熱と高い識見によつて学園はよみがえり、今日の発展を迎えた。誠に浅野家累世の業に劣らぬ偉功を成し遂げた理事長といえる。戦後窮乏の学園財政の中で資金借入れに理事長個人の信用が大きくものを言ったこと、積極的な建設事業への構想、わけても大学の拡充発展や現在の中高部大拡張工事等未来を見通す広大な意図であり、清潔・堅実な処理、民主的な法人運営など私学経営の範ともされるものである。」(修道学園史332頁)



田中 好一元理事長



加藤友三郎顕彰会の紹介

加藤友三郎顕彰会理事長
日本赤十字社中国ブロック
血液センター所長
修道医会会長

土肥 博雄(高16回)

加藤友三郎は文久元年(1861)2月22日に広島市大手町で加藤七郎兵衛の三男として生まれています。12歳で海軍兵学校に入学した俊英です。明治38年のバルチック艦隊との日本海海戦に参謀長として参戦し、東郷平八郎艦長を補佐しています。旗艦三笠の絵が修道高校の応接室にあります。東郷平八郎長官のすぐ横に加藤友三郎が描かれています。彼の下で参謀を務めていたのが「坂の上の雲」に出てくる秋山真之です。

大正4年8月10日に第二次大隈内閣で海軍大臣に就任し、同年同月の28日には海軍大将に昇進しています。以後寺内、原、高橋の四つの内閣で海軍大臣を務めました。また、寺内内閣では加藤友三郎海軍大臣以外はすべて山縣有朋派と言う異常な状態も経験しています。

加藤友三郎を最も有名にしたのは第二次世界大戦後のワシントン軍縮会議です。第19代内閣総理大臣である原敬から大正10年10月にワシントンに送り出されましたが、その原敬総理大臣は11月4日東京駅で右翼青年中岡良に襲撃、刺殺されました。同年11月12日にワシントン軍縮会議が始まった時は高橋是



土肥 博雄

清内閣となっています。

その当時の世界情勢といえば、大正8年1月18日より始まった「パリ講和会議」は紛糾し最終的に二応の決着を見たベルサイユ条約、ヌイイ条約が締結されたのは年末になつてからです。

ロシアでは革命がおき、ロマノフ王朝のニコライ二世とその家族が殺害されボルシェヴィキ派のレーニンが政権を握りました。オーストリアではハプスブルグ家が追放されました。大変な混乱期でありました。一方、日本はと言えば戦勝国の二員として国内が湧き上がっている極致でした。この様な情勢下で米國ウイルソン大統領に代わつて登場したウオレン・ハーディング大統領の提唱で行われたのが、ワシントン軍縮会議でした。

11月12日に始まったワシントン軍縮会議の冒頭で米國は爆弾発言を行います。米・英・日・仏・伊が10・10・6・3・3と言う海軍軍縮が提案されたのです。

日本海軍は密かに7を下回らない様にとの判断をしていました。その中で6という提案で、軍縮を受け入れる事が如何に困難な判断であるかは皆さんにも容易に想像できると思います。

この様な状況で日本に帰ってきた加藤友三郎を待っていたのは、大正11年6月12日内閣総理大臣兼海軍大臣への就任でした。一生懸命総理大臣を務めたものの、翌年12年8月24日逝去しました。

加藤友三郎の功績を顕彰する銅像が昭和10年に比治山公園に制作されました。しかし、昭和18年金属回収令により台座を残して銅像は撤去されたのです。銅像を再建しようという「加藤友三郎銅像復元委員会」が立ち上がり平成20年8月24日(加藤友三郎の命日)に銅像が中央公園に復元建立されました。この会は現在加藤友三郎顕彰会とし

て①「加藤友三郎の功績を顕彰する活動」、②「加藤友三郎の事績を周知させるための広報活動や各種行事の開催」、③「前項に関わる歴史や地域の由来などの普及・研修活動の実施」、④「その他目的達成に向けた施策の推進を行う活動」を続けています。皆様の大きなご参加をお願いする次第です。会費は年3,000円です。

なお事務局の連絡先は〒732-0033 広島市東区温品六丁目23-14(田辺方) 加藤友三郎顕彰会 TEL 082-289-1082 までお願いします。

碓井静照先生と 加藤友三郎子爵

西林 洋治(短20回)



碓井静照先生(高8回)

加藤友三郎(広島市大手町生 第21代内閣総理大臣)の銅像の復元をはじめました。

「今度は友三郎ですか!」碓井静照先生のにこやかな眼差しが、「良いですよ!」引き受けますよ!」

先生、広島市長との約束で期日までに設置しなければ責任を負わなければなりませんがお願います!

碓井静照先生はやさしく諒解しますよとあの眼差しで言ってくれました。広島県医師会館の会長室で碓井静照

先生が友三郎銅像復元募金会の会長を引き受けてくださった瞬間です。

友三郎の銅像復元運動は、ボツンと比治山公園に今も立っている主な台座が立派すぎてかえって忍びない、友三郎ゆかりのシンパ数人の思い入れから始まったマイナーな仲間達が時間を掛けて徐々に賛同者を集めながら支援の輪を広げて行きました。

地元紙や全国紙にワシントン軍縮会議主席全権とか、シベリア撤兵断行の軍縮総理などと投稿をくり返し、加藤家ゆかりの元菩提寺(比治山町の法正寺)に募参、伝記作家を招いて講演会、FFに募金ブースを出店、友三郎の愛飲した地酒(蓬莱鶴)を呑み大好物だった煮こめで利き酒会、比治山公園の主なき台座を囲んでの花見・現代美術館エントランスでコンサート(広島市長の挨拶付き)・親族をお招きしての交流懇親会・友三郎募参ツアー(青山霊園)を行い、故事になぞらえた提灯行列(総理大臣就任直後大正11年6月15日に当時広島市長の呼掛けで政財界300余名が、友三郎生家(現大手町三丁目第二公園)の姉宅を訪ねて大手町筋から本通り、えびす通り、下柳橋を渡り比治山神社に詣で御便殿に向かつて万歳三唱した)には、碓井静照先生は提灯を持ってくださいました。

碓井静照先生は友三郎の銅像復元募金活動が順調ではないかと察したのか、困っているのだねとあの眼で言われたように私は今もうれしく記憶しています！友三郎の銅像復元会は代表者不在で出発した草の根の集まり、仲間内の暗黙で成り立ったグラスルーツの集まり、走りながら代表を選ばないと甘くスタート、広島県選出の大臣経験者を始め各方面にお願いしましたが何れも諸般の

事情で引き受けて貰えない、したがって活動の成果も徐々に捗々しくいかななくなつた、そんな時期に先生にお願いにあつたのでした。

碓井静照先生は叙位五位ですから、いつの日にか加藤友三郎先輩から労いの声かけがある日が到来すると思います。その時は広島の方にもお忘れなくと伝えてください。先生お願いばかりでスミマセン。合掌

ACR Master (No.2) に選ばれて

高杉 潔(高8回)



高杉 潔

ACRとはそもそも何ぞや?でありましょう。アメリカ・リウマチ学会の略称です。アメリカで1960年代後半に臨床修練を受けてきた小生はこの学会の正式なメンバー(詳しくはInternational Fellowですが...)であつて、毎年の學術総会にははるばる日本からいつも馳せ参じているのですが昨年のワシントンDCで開催された学会総会でその最高栄誉賞ともいえる「Master」を授与される光栄に浴しました。

この名誉ある賞を受けることの出来る人は65歳以上のアメリカ・リウマチ学会正会員でリウマチ学における研究、臨床、教育などの諸方面で秀でた業績を挙げた者とされています。その選考委員会宛に「3名のリウマチ学会員からの推薦が必要」とされているなかなかハード

ルの高いものです。小生はYale大学在留時のボスが中心になって推薦の労をとって下さったのが受賞に繋がったわけで彼には大変感謝しています。

アメリカ・リウマチ学会の会員はほぼ全世界を網羅しており、選出されたMasterもほぼ世界中におられるのでACRはアメリカの学会です。USの賞の授与は1987年から始まり、だいたい一年間に平均15名が選出されてきていて今日までその総数は約320名。内約2割の方が既に物故されており、残りのほぼ260名の中に小生を加えていただけたということで学会発行の会員名簿(Membership Directory)のMaster欄に永久に小生の名前が掲載され続けることとなりました。ちなみに日本人としては小生で2人目。この「2人目」と言うことが広く喧伝されて、今でも患者間では大変な評判となっているようです。Masterに選ばれての御利益は何でありましょう?学会事務局が大変大切にしてくれて、今年からの秋の學術総会出席がとても容易になりました。宿の予約は真つ先にお好みのホテル選択可能・学会参加費は無料(complimentary)といえます。学会登録も最優先...と至れり尽くせりです!学会中に持たれる恒例の「会長招宴」への招待状も必ず届けられるので旧友との再会も一段と容易になった等々です。

昭和25年から昭和31年までの6年間。広島県西端の大竹町から毎朝6時43分発の蒸気機関車に引張られた列車に乗り、煤煙にまみれながら通つた南千田町。いつも暖かく接して下さった恩師半田勇三先生からの暖かい数々の励ましのお言葉など修道在学時の思い出は尽きません。

文学博士「高橋俊三」

六年間同組 小辻 一洋(高13回)

修道学園図書館の蔵書に「琉球王国時代の初等教育」と「追悼 高橋俊三 沖繩とともに」がある。博士は、袋町小学校・修道中学高校(昭和36年卒13回生)から広島大学同大学院を経て沖繩国際大学に奉職し、平成24年5月満七十歳の誕生日の翌日に急逝した。博士はその生涯を単に琉球方言の研究に捧げたのではない。「沖繩には、そもそもその日本文化が残っているんだよ。琉球の言葉のなかにそれがはつきり残っているんだ」「平安時代の日本人がどんなふうに進音していたのかは八重山方言がヒントになるんだよ」毎日あのわかり難い言葉を何度も何度も独特の広島弁で聞いて回りとどうと難聴になってしまったほどだ。学問とは、研究とはこれほどまで過酷ですさまじいものであるかを教えてくれると同時に「これほどやりがいがあり楽しいものである」ということを教えてくれる。「沖繩学の父」と言われる民俗学者伊波普猷(いはふゆう)の名を冠し

た「賞」が贈られたことはいかに多大な貢献をしたかを表している。これだけの業績を残すことができたのは、多くの仲間とともに教え子であり会った時から赤い糸で結ばれているとわかったという「恵子」さんという伴侶がいたことを「追悼文集」を読んでわかつてほしい。



修道の思い出

広島平和研究所 所長

吉川 元 (高22回)

修道中学校に入学したのは、東京オリンピックが開催された1964年(昭和39年)のことである。中学校一年生の夏、光市の室積海岸で行われた臨海学校(宿泊所は小学校校舎)は、私には大切な思い出となった。最終日の前日であったと思うが、むかいの島まで船で渡り、そこから隊列を組んで遠泳が始まった。力尽きた級友が救命ボートから差し出される竹竿にしがみつき、ボートに引き上げられたものの、しばらくして再び海に投げ込まれていた。それを目の当たりにした私は、泳ぎをあきらめて助けを求める勇気などなく、結局、泳ぎ切った。4時間以上をかけて5



吉川 元

キロメートルの完泳は実に快挙である。なにせそれまでは小学校プールの25メートルが私の遠泳最長記録であったからである。一級(最上級)に昇進したつかの間の喜びも、夕食後の休憩時間に凍てついた。水泳部の先輩たちが入部勧誘に教室に入ってくる姿を見つめるや、とっさにトイレに逃げ込み、内側から鍵をかけて部員が立ち去るのを待った。二度と泳ぎたくなかったからである。その後、臨海学校の遠泳の苦しさだけは、忘れることができなかつた。青春時代、幾度となく苦難に突き当たるたびに、遠泳を思い出し、「あの苦しさは比べれば…」と、耐えることができた。

今から3年前の夏、晴れて第22回合同卒業式を迎えた。高校3年生の2学期と3学期は、学園紛争にもまれ、生

旧中 37期・38期 友情の絆を咲かす

河本 武彦(旧中37回)

我々、旧中37期・38期の同期会の常連幹事の佐々木博氏の長期療養の為、久しぶりの開催となった。遠来の方々総勢21名(東京より3名、名古屋より1名)を交え、戦中戦後を共に生き抜いて出逢えたことにまずは歓喜の声を上げた。1944年の3年生2学期(7月7日)学徒動員の命により三菱造船江波工場で働き学び、翌年8月6日には直接被災した。その後は、さまざま後遺症に怯えながら生き抜き、ここに出逢えた懐かしい悦び・笑顔の出会い・級友の安否の確認の思い出話に時の過ぐるを忘れて語り合い有意義なひと時であった。

最後に校歌を斉唱し、応援歌を声高らかに合唱して別れを惜しんだ。

まれて初めて人生を、そして世界を真剣に考えたものである。まじかに迫る大学受験への焦りと、高校生なりに背負った小さな「正義」との狭間で、揺れ動き、悩んだ。苦勞して修道に通わせてくれた母は、一日中、学園紛争に明け暮れて帰宅する息子の姿に、泣いていた。学園紛争の影響で異例の分散卒業式となった。教室で卒業証書を手渡され、将来に不安を覚えつつ校舎を後にし、級友と小雪が舞う市内を呆然とさまよい歩いた。あの青春のつまずきのせいで、人生を遠回りしたと悔いたこともあったが、少々のことではへこたれない根性が植えつけられたこともまた事実である。それから40年。合同卒業式に参加し、再会した旧友に40年前の面影を見つけ、「おお、君か」と再会を祝した。



平成25年5月23日13時 於:WEST PLAZAに集う
世話人:木村静人、天野和人、河本武彦
注)前列左3番目より6名
(芳野統男・川崎勲・田村博昭・新宅哲吾・木村静人・渡辺賢彦)
戦後サッカー部が復活し第一回のサッカー部メンバーの内、6名が元気に参加した。

高校四期会 同期会報告

皆川 孝一(高4回)

今年(昭和)は昭和とすると88年、われわれ高校4期生の多くは昭和8年生まれなので年齢が80歳。縁起のいい8尽くしの傘寿を迎えます。毎年6月、第2土曜日に四期会総会が行われてきましたが、今年(昭和)は「川野観治先生米寿・4期生傘寿記念」と銘打って、6月8日(土)に川野先生をお迎えして38名の元気な顔を揃えました。東京から参加の倉本君は、ヨットで万里の波濤を乗り越えて来る元氣さです。

今は亡き恩師・友人に黙祷を捧げた後、川野先生のご挨拶、ヨットマン倉本君の発声で乾杯、宴に入りました。川野先生は米寿を迎えられても、昔、ラウドスピーカーと異名をとった大音声は今も衰えておりません。

一気に40年前の修道高校に戻った。研究者の道を行ってきた自分の心に私は修道校歌が生きていると常に自覚している。入学当初、12歳の少年には難解であったあの校歌も、6年間、意味を理解せぬままに校歌斉唱を重ねるうちに、いつしか身に付いた。校歌の一節「高き理想に生くるなり」「知徳併進経となり、質実剛健緯となる」、そして「見よや修道魂を」が、いつしか自分の行動の原動力になっていったように思う。自由奔放に6年を過ごした学舎の歴史と校風が、研究者としての指針となつて今も生きています。今春、故郷に戻り、広島平和研究所に勤務している。これからは、研究者としていつそう精進するとともに、国際平和の創造に捧げ、「世の進運に魁けん」覚悟である。

同期会報告



平成25年度 川野先生米寿・四期生傘寿記念 総会・懇親会
(第41回・卒業後61年) 日時:平成25年6月8日(土) 12時より
場所:広島アンデルセン5階

歓談の後、元音楽班長・長坂君の指揮で校歌と蛍の光を合唱、原田君の音頭で万歳三唱し米寿・傘寿記念の会はお開きとなりました。席上、衣羽神社宮司の大巳君が一同の米寿・傘寿を祈願し、お守りを拝受、また「傘寿を迎えられたお守りを拝受、また「傘寿を迎えられた四期生の想い出」と題した冊子が配られました。これは各自が寄せた短文をまとめたものです。題字は内藤明郎君の流麗な毛筆、内容は、万年幹事の菊田、木下、河野、内藤の四君がパソコン等を駆使して編集した手作りの文集で、一同感謝しつつ受け取りました。



喜寿の旅

阿津地 勲 (高5回)
山崎 経男 (高5回)

私たちは昭和28年卒の高校5回生で全員昭和9年・10年生まれで喜寿を迎えた者ばかりです。昨年9月26日、28日にかけて九州菊池温泉・指宿温泉の2泊3日の旅に出かけました。

博多駅で広島組と近畿組が合流し、貸し切りバスに乗り久留米市内で、うなぎのセイロ蒸しで昼食を取り、次に柳川の水郷巡りを終えて、熊本菊池温泉に泊り、翌朝坊中から阿蘇外輪山に上りました。阿蘇は昭和24年中学の修学旅行で来ており、昔話で盛り上がりました。戦後まもなくであった為、お米持参であった事、宿(別府)の夕食はイワシの丸煮で、いくら栄養失調気味の我々でも持て余したこと等々。窓の外にはホームレスが私たちが捨てるイワシを待ち受けていた事など、昨日のことのように記憶がよみがえってきました。大観峰から降りて、噴煙を上げる中岳のよく見える草千里で記念撮影を撮り、昼食は阿蘇山のステーキで、素晴らしい美味であり、イワシの丸煮とは月とスッポンの違いで、過ぎ去った歳月を実感しました。

阿蘇から人吉・鹿兒島を経て指宿温泉に宿泊し、翌朝開聞岳の麓を通り、特攻基地で有名な知覧に向かい、知覧特攻平和会館に到着。ここは太平洋戦争末期に沖繩を取り巻く米軍艦船に、爆弾を搭載した戦闘機で体当たり攻撃をした、陸軍特攻隊の基地であったところである。若くして戦争の犠牲となった特攻隊員の御霊に手をあわせる。隊員の遺書には両親宛のものが多く、目に付くのは何と言っても母親宛の遺書である。

其の二通を紹介すると「俺は幸福だった。遂に最後まで「お母さん」と呼ばざりし俺、幾度も思い切つて呼ばんとしたが何と意志薄弱な俺だったらう。母上お許し下さい。さぞさびしかつたでせう。今こそ大声で呼ばせていただきます。お母さん、お母さん、お母さん。」

知覧を出発して鹿兒島へ入り、焼酎醸造工場を見学し、ほとんどの人が、焼酎を購入し、昼食は黒豚のしゃぶしゃぶをいただき、旧島津藩の庭園「磯庭園」を散策する。ここからは、目前に噴煙を上げる桜島を一望できた。桜島は最近一年間に千回を越える小噴火を繰り返しているとのことである。その時も噴火直後の黒い噴煙が白煙の中に見えた。最後に西南の役で官軍に追い込まれた西郷隆盛が、幹部らと潜んでいた城山の洞窟をみて、鹿兒島中央駅から九州新幹線「さくら」に乗り広島・新大阪へと帰ってきました。



平成25年度 修七会

山下 泉 (高7回幹事)

去る7月6日にリーガロイヤルホテルで修七会を開催した。川野・保澤両先生をはじめ総勢58名の出席で盛大に開催された。大半の同期生は77歳を迎え、80歳位までは修七会を続けようという誓いがあった。森本名誉会長・山木戸会長のあいさつ、修道連合同窓会会長の天下君から9月の修道学園同窓大会への出席の要請がありました。

関東から藤野君、田島君と関西からは清益君の出席があり近況報告など、約1時間半を楽しく過ごすことが出来ました。最後に校歌はこれまで古村君が音頭を取ってくれていましたが、急逝されたので島君(元校長)が努めた。





(昭和19年春早朝 敬道館前 寄宿舎生)

修道学園が発行した『流光』と織井青吾著書に修道中学校2年生は「その瞬間、雑魚場町(元市役所東)の建物疎開作業に出動した144名のうち136名の生命は奪われ、出動途中、たまたま欠席した10数人と日本製鋼所西高屋工場に動員中の50名は死を免れた」と記録されています。それと合わせ昭和19年撮影の貴重な写真に写っている修道中2年生寄宿舎生33名の動向。生死を分けたこの記録と写真を見て、「修2会」の一人ひとりには心の芯部が痛むのです。

織井青吾著

「原子爆弾は語り続ける ヒロシマ60年」



川上清著

「ラバウルの黒い雨 いわれなき罪 海軍大尉 片山日出雄」

「ラバウルの黒い雨 いわれなき罪 海軍大尉 片山日出雄」(川上清著 文芸社 2013年)
太平洋戦争中インドネシアのアンボン島で起こった日本軍による捕虜虐殺事件で、海軍司令部の下級将校であった片山大尉が上層部の罪を一身に負って銃殺刑に処せられた。
正義と公正を追求しなければならぬ裁判も勝者が敗者を裁くとき、裁くべきを裁かず裁くべからざるを裁く。敬虔なクリスチャンであった片山大尉は処刑執行者の赦しを神に乞い従容として刑場に散った。片山日出雄大尉、修道旧中28回卒、尊敬すべき我々の大先輩である。(文中の主要部、関連図書「アンボンで何が裁かれたか」から引用)

同窓会ニュース

「修道学問所之蔵」移築・復元工事と募金報告

同窓会設立100周年記念事業として平成24年4月3日に起工式を行い、移築・復元工事に着手した「修道学問所之蔵」は、現在全体の約70%が完成しています。外観がほぼ完成した平成24年10月22日には、蔵の「お披露目式」を行いました。

平成25年6月から荒壁・中壁塗り、下見板貼り工事を行いました。再び乾燥させ11月から工事を再開し、平成26年7月頃に竣工する予定です。移築・復元工事が完了した後、広島市に文化財指定の申請を行う予定です。

●募金の状況(平成25年8月31日現在)

| | 件数 | 金額(円) |
|---------|-------|------------|
| 同窓生(個人) | 1,673 | 25,236,838 |
| 〃(法人) | 54 | 6,318,019 |
| 教職員 | 58 | 720,000 |
| 役員 | 21 | 4,830,000 |
| 保護者 | 379 | 5,321,000 |
| 業者 | 35 | 7,665,000 |
| その他 | 3 | 40,038 |
| 計 | 2,223 | 50,130,895 |

なお、この事業に対し多くの同窓生の方々から、次のおり多額のご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

山縣亮太選手 日本人初の9秒台に向かって



山縣亮太選手

山縣亮太選手(高63回、慶應大)は、6月8日に行われた日本選手権男子100mで10秒11の好タイムで初優勝を飾りました。

鋭い飛び出しから徐々に加速し、4月末に10秒01の記録を出した桐生選手(京都・洛南高)をみるみる引き離し0秒14の差をつけ独走状態でゴールしました。

山縣選手は、7月8日に開催された第27回ユニバーシアード競技大会(ロシア・カザン)陸上男子100mで10秒21のタイムで2位に入りました。この種目のメダル獲得は、飯島秀雄、江利口匡史に続いて3人目の快挙となりました。

続いて8月10日に開催された世界選手権(ロシア・モスクワ)の陸上男子100m予選に出場しました。ウサイン・ボルト(ジャマイカ)と同じ組で走り、10秒21の好タイムでありながら4着となり惜しくも予選敗退となりました。ロンドンオリンピックに続く準決勝進出は果たせませんでした。

これからも「修道魂」を胸に日本人初の9秒台を目指して頑張ってもらいたいものです。

同窓会ニュース

第2回修道杯修道学園(中・高)同窓会ゴルフ大会

平成25年3月24日(日)、安芸高田市のリージャスクレストゴルフクラブに於いて、修道学園(中・高)同窓会ゴルフ大会を盛大に開催いたしました。

お陰さまをもちまして、最年長は高校8回(76歳)から、平成25年の同窓大会世話人の57回(26歳)までの148名の方々にご参加いただきました。午前8時より4か所からのショットガンスタートでコンペを開始。春分の日を過ぎたとはいえ、肌寒い中でのスタートでしたが、徐々に天候も回復して一人のリタイヤもなく無事に競技を終了しました。その後は、クラブハウスにて全員参加での懇親会となりました。高校18回の修道学園住田専務理事によるご発声での乾杯の後、成績発表となりました。第2回目となる「修道杯」は、高校13回の吉貴康二先輩の優勝となりました。おめでとうございます。

最後は、本年度代表世話人である高校57回の杉田卓也君から9月開催の同窓大会に向けての熱い思いに耳を傾け、高校8回大塚前同窓会副会長による中締めでお開きとなりました。

なお、準備から当日運営に至るまで実行委員会メンバーの方々にご協力いただきました。改めてお礼申し上げます。今後も微力ながらではありますが、修道の伝統を受け継ぎながらも、誰もが楽しく参加できるゴルフ大会を目指し、同窓会の継続、発展に寄与していきたいと思っております。



東大 白砂投手 連敗阻止なるか!

東京六大学野球は、6月2日に春季リーグの全日程を終え閉幕しました。東大は56連敗を記録しましたが、その東大野球部でエースを任されているのが、白砂(しらさご)謙介投手(高64回、東大2年)です。

今春から東大野球部の特別コーチに就任した元巨人軍の桑田真澄氏から投球術や打者との駆け引きを学んで臨んだ春季リーグでしたが、あと一歩のところまで連敗阻止は果たせませんでした。

白砂投手について、修道高校野球班監督の山田薫教諭は、「彼は、硬式野球がやりたくて修道に入学し、俊足、強肩、好打のセンス抜群の生徒だった。高校1年生の春からベンチ入りし、高校3年生の夏の広島県大会では、エースとして修道のベスト16入りに貢献した。成績も抜群で、文武両道を地で行く生徒であつた」と当時を振り返っています。

秋季リーグで悲願の1勝を上げるため、寸暇を惜しみ日々練習を重ねる毎日です。連敗阻止の朗報を待ちたい。



白砂謙介投手
中国新聞社提供
(2013.5.22朝刊)

平清盛記念事業について 中村靖富満(高30回)

昨年のNHK大河ドラマ「平清盛」の放映にあたり、広島県と廿日市市に大河ドラマ「平清盛」推進協議会がそれぞれ設立され、2年間にわたり事業を行ってまいりました。その集大成として、両協議会の協力のもと、宮島に「平清盛公」像の設置を目的とした「平清盛記念事業」実行委員会が設立されました。

実行委員会は、私が会長を務める宮島観光協会を中心に組織され、不肖私が実行委員長を仰せつかりました。

設置場所は、宮島島内の厳島港湾広場を予定しており、平成

26年3月20日に除幕を行う予定で準備を進めています。像は約3mの大きさで、総事業費は約1,200万円の予定です。現在、1口10,000円で寄附をお願いしています。宮島に数々の功績を残された平清盛公の遺徳を偲ぶとともに、世界文化遺産、日本三景の島の新たな観光スポットとしての役割も期待するところです。

皆様には趣旨をご理解のうえご支援ご協力いただきますようお願いいたします。

修道学園同窓会連合会発足20年

修道学園同窓会連合会は、平成26年4月で発足20年を迎えます。

平成5年3月23日組織検討委員会(委員長山下泉氏)より「修道学園のさらなる発展を期するため学校法人修道学園の設置する中学校、高等学校、短期大学、大学および大学院を四つの

同窓会として独自性を保ちつつ、これらを全てまとめた連絡調整機関として新たに修道学園同窓会連合会を組織化する。これにより、同窓会の会員相互のより一層の親睦と母校の発展を期すること」との答申があり、幹事会において承認され、平成6年4月1日より発足することとなりました。

永年勤続表彰

このたび、以下の方々が永年勤続表彰を受けられました。同窓会役員として20年の永きに亘り、同窓会発展に多大のご尽力を賜りました。

平成25年5月31日に開催された幹事会・評議員会の席において、大下龍介同窓会連合会会長より、表彰状並びに記念品料を

お贈りし、永年の功労に感謝の意を表しました。

永年勤続被表彰者(敬称略)

貫名 賢幹事、伊藤學人幹事、岸 英雄幹事、庄子佳良幹事、畑尻隆司幹事、西林洋治幹事

事務局だより

役員改選について

修道学園同窓会連合会役員並びに修道学園(中・高)同窓会役員の任期(3年)が、平成26年3月31日をもって満了となります。
つきましては、今後、次期役員選出に向けて作業を進めてまいりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

役員改選のスケジュールは、次のとおりです。

- ① 年内に評議員全員に就任依頼書送付
- ② 3月20日の評議員会・幹事会において、幹事・監査・会長・会長代理・副会長・名簿委員選任

会員名簿第36号の発行について

現在、名簿委員会(会長 大方幸郎)において、「会員名簿第36号」を発行する準備を進めております。発行は平成27年3月の予定です。前35号は、平成22年3月に発行しました。

今回も名簿発行業務は、(株)サラトに委託し、平成26年6月頃には調査ハガキを会員全員に発送する予定です。

より良い名簿作りに向けて努力いたしますので、幹事・評議員をはじめ会員皆様のご協力をお願いいたします。

(ご注意)

本同窓会の名をかたてて名簿を販売するケースが頻繁に起こっています。不審なハガキや電話等にはお答えにならないようお願いいたします。同窓会が名簿を発行する場合は、必ず同窓会長名で調査を行います。

住所変更手続きのお願い

住所・電話番号・勤務先、Eメールアドレスなど変更のあった方は、変更手続きをお願いいたします。変更手続きは、修道学園(中・高)同窓会ホームページの住所変更登録フォーム、または名簿内の添付がきでのご連絡ください。電話等でも結構です。

変更の連絡をいただけないと同窓会からのご案内ができなくなりますので、よろしくお願ひいたします。

修道学園(中・高)
同窓会事務局

〒730-0055
広島市中区南千田西町8番1号
TEL(082)241-6686(直通)
FAX(082)249-0870
E-mail: dosokai@shudo-h.ed.jp